

大豆だより

第3号

令和7年7月25日発行
西村山農業技術普及課
TEL：0237-86-8301

少雨の影響で土壌が乾燥！ かん水で土壌水分を確保し、収量低下を防ぎましょう！

間もなく大豆の開花期ですが、**6～7月の降水量が少なく、ほ場の乾燥が進んでいます。**

大豆は、**開花期～登熟初期にかけて多量の水を必要**とします。水分が不足して乾燥が進むと、花数の減少や落花、落莢による結実数の減少、百粒重の低下など、収量に大きく影響します。

開花期に**無降雨状態が続く場合には、かん水**を実施することで、着莢数の向上や粒の肥大を図ることができます。

1. かん水のタイミング・時期

- ・開花期以降に土壌の乾燥が続くとき
- ・降雨の見込みがなく、晴天が1週間程度続き、土が白く乾燥した場合
- ・日中に大豆の葉が立ち、半分以上の葉で裏面が見えるようになった時期
- ・乾燥が続き土壌表面に亀裂が生じたとき

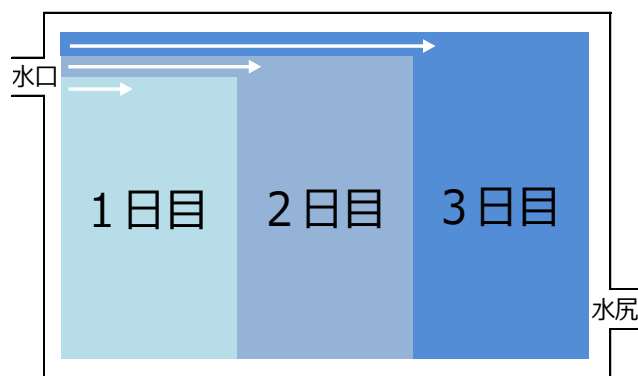


図 畦間かん水方法

※30a 規模の圃場では3日間に分けて徐々にかん水する

2 かん水の方法

- ・暗渠を閉じてほ場周囲の明渠や畝間を利用してかん水し、水分を補給しましょう。
- ・かん水は朝夕の涼しい時間帯に行い、ほ場全体に水が行き渡ったら速やかに排水します。
- ・30aを超えるほ場では、3日間に分けて徐々にかん水を行いましょう。
- ・過度のかん水や排水が不良なほ場でのかん水は湿害を招くので、注意が必要です。
- ・この時期は、他の作物も水を必要とする時期ですので、近隣の状況にも十分配慮した上で、かん水可能なほ場で実施しましょう。

STOP 農作業事故！あせらず、ゆとりを持って作業を進めましょう！

農薬危害防止運動実施中！農薬を適正に使用し、農薬事故を防ぎましょう！

熱中症に要注意！水分補給をしっかりと行い、適度に休憩をとりましょう！